

# 2018年2月 話題広告賞

あの冬が、  
僕たちの夢の始まりだった。

1998年2月、長野県風間公園アリーナ。  
最前列で試合を見つめる幼い兄弟のいた。  
その二人は、のちに日本の男子カーリングを  
20年ぶりのオリンピック出場へと導くことになる  
長野県出身の両角友佑・公佑兄弟だった。

当時、ホームもわからなかった二人を魅了したのは  
距離から目に染まり  
野内を、そしてアリーナを満ちた熱。  
その熱は、ま子は友佑を競技へと導いた。  
それに続いた公佑は、ジュニアの世界大会で活躍する  
兄の家を見て、世界で勝てるも確信した。

しかし2009年に初出場を果たした世界選手権では  
「まるで子供扱いだった」。  
悔しはなかった。むしろ、やるべきことが見えた。  
夢だったオリンピックが現実の目標になり  
ストーンのコントロールを1キヤン単位で修正し  
合、守るへ。

しかし、オリンピックは最終ゴールではない。  
「勝つことが、若手を育てる環境をつくる」  
つんだ夢を未来の礎にすべく、戦いに挑む。

ストーリーは、続く。  
両角友佑 両角公佑

両角友佑・両角公佑  
友佑は、1985年、20歳で国際特殊教育学校生。公佑は特別  
ケアが不要。2008年、長野県立長野高等学校の入学と同時に  
AGEを結成。2009年、長野県立長野高等学校でデビュー。現在は  
長野県立長野高等学校体育科。2017年、長野県立長野高等学校  
体育科。17年が経ち、両兄弟は世界で活躍する選手となった。

20th Anniversary  
NAGANO 20th Anniversary  
長野から未来へ

PARALYMPICS  
NAGANO 2018  
長野オリンピック・パラリンピック20周年記念事業

「NAGANO」が  
新たな伝説を生む  
長野県立長野高等学校体育科。2017年、長野県立長野高等学校  
体育科。17年が経ち、両兄弟は世界で活躍する選手となった。

長野県立長野高等学校体育科。2017年、長野県立長野高等学校  
体育科。17年が経ち、両兄弟は世界で活躍する選手となった。

2018年2月4日付 15段×3

長野オリンピック・パラリンピック20周年記念事業実行委員会

[制作 轟 理歩、編集室いとぐち、studio Hi-Bush、ながのアド・ビューロ]

# 2018年2月 話題広告賞

あときの芽が、  
少しずつ、社会を変えていた。

視覚障害のある井口菜雪は  
思ってもいまい運動能力とスキー技術を見込まれ  
長野パラリンピックを目指した。  
種目はバイアスロンとクロスカントニー。  
着実に成績を上げてNAGANOで金メダルを獲得。  
パラリンピックが箱庭ではなく  
スポーツの記号として報道され、人びとも沸いた。  
及ばぬ大きき井口は驚き、それを糧にさらに踏み込んだ。

その熱狂とは裏腹に、引継する選手も多かった。  
選征、設備、伴走者―経済的負担は余りに大きく  
金メダリストの井口ですら、例外ではなかった。  
文人夫のは2004年にできた  
日本初の障害者実業団スキーチーム。  
井口は驚り返る。  
「NAGANOが、人を、社会を、少しずつ変えていた」。  
そして2年後、再び金メダルを手にした。

2020年東京が近づき、費金は高まっている。  
しかし、伴走者やコーチの育成、関心の喚起  
「やれることはまだまだある」。  
引継し、妻として、母として暮らす井口は  
東京に、そしてその先の未来に、望みを託す。

ストーリーは、つづく。  
井口菜雪

井口 菜雪  
1973年、長野県佐久郡、田代町、小中、長野県立佐久高等学校にて視覚障害者として誕生。1998年長野パラリンピックに出場し、バイアスロンとクロスカントニーで金メダルを獲得。2004年長野パラリンピックに出場し、バイアスロンとクロスカントニーで金メダルを獲得。2018年平昌パラリンピックに出場し、バイアスロンとクロスカントニーで金メダルを獲得。2018年平昌パラリンピックに出場し、バイアスロンとクロスカントニーで金メダルを獲得。

NAGANOが  
障害者スポーツの  
概念を変えた

NAGANO Paralympic Channel

20th Anniversary  
NAGANO  
PARALYMPICS  
NAGANO 2018

長野オリンピック・パラリンピック20周年記念事業

2018年2月4日付 15段×3

長野オリンピック・パラリンピック20周年記念事業実行委員会

[制作 轟 理歩、編集室いとぐち、studio Hi-Bush、ながのアド・ビューロ]

# 2018年2月 話題広告賞

原点は一校一団運動。  
国際平和を願い、教育の道へ。

長野オリンピックを契機にはまった  
「一校一団運動」で  
小学生だった岩本美実里は、ロシアへ渡った。

最速の車で駆け戻ったサッカー場  
弾丸で舞の舞の上になったままの阪神  
復興とは裏腹に、再戦の爪痕がそこにはあった。  
友人知事はその瞬間も後援者を持ち残っていた。  
世界で一番ひどい兵器だと知り  
平和な世界にしたいと、強く思った。

地震対策の資金を廻る募金やイベントに取り組んだ。  
中学生になってからは、ユニセフの募金も呼びかけた。  
教育か、国際関係か、学ぶ道を選んだときは  
一校一団運動で抱いた思いが浮かんできた。  
「知るだけが、平和を考える第一歩」  
心を決め、教育の道へ。

教職に就いて3年  
子供たちに世界を知ってほしい。  
日暮り、教育を余しながら他国に貢献したい。  
抱いた思いは、子供たちが自分自身が  
選べた力となって、未来を担う。

ストーリーは、続く。  
岩本 美実里

1998

2018

世界の子ども達も困っている

ITCA 国際協会の情報

岩本 美実里  
1992年長野生まれ。三木小(現三木中学校)に在学中、国際関係科で教育実習中に一校一団運動を知り、2000年2月、2002年11月、04年10月、05年10月にロシア連邦のモスクワに渡り、国際関係科で教育実習した。

「NAGANOの  
道」が息づくまぎ  
長野オリンピック・パラリンピック20周年記念事業  
NAGANO'S GLOW  
長野県立高等学校(現長野県立高等学校)で教育実習中に一校一団運動を知り、2000年2月、2002年11月、04年10月、05年10月にロシア連邦のモスクワに渡り、国際関係科で教育実習した。

長野オリンピック・パラリンピック20周年記念事業  
20th Anniversary  
NAGANO'S GLOW  
長野から未来へ

2018年2月4日付 15段×3

長野オリンピック・パラリンピック20周年記念事業実行委員会

[制作 轟 理歩、編集室いとぐち、studio Hi-Bush、ながのアド・ビューロ]